

横断的・融合的 地域文化研究の領域展開

— 新たな社会の創発を目指して —

日時：2023年3月16日（木）10時～17時

場所：フクラシア八重洲 東京都中央区八重洲2丁目4-1住友不動産八重洲ビル3F

定員 100名（事前申込み制、参加費無料）

オンライン配信 定員 200名（事前申込み制、参加費無料）

申し込み方法：右のQRコードへアクセスいただくか、「横断的・融合的地域文化」で検索いただき、必要事項をご記入の上、お申込みください（お問合せ先：rekibun@rekihaku.ac.jp）



○ 総合地球環境学研究所

谷口真人（総合地球環境学研究所・ユニット代表）

「恵と禍の相克を超えた地域文化の創生に向けて」

深町加津枝（京都大学）

「未来にアカマツの文化と生業をつなぐために」

○ 国立国語研究所

大西拓一郎（国立国語研究所・ユニット代表）

「『市民科学』プロジェクトの概要と2022年度の活動」

陶山徹（長野市立博物館）

「諏訪天文同好会と信州天文文化100年」

○ 国文学研究資料館

西村慎太郎（国文学研究資料館・ユニット代表）

「3.11 複合災害被災地域における歴史文化の再構築」

菅井優士（大熊町教育委員会）

「福島県大熊町の文化財レスキュー」

○ 国立歴史民俗博物館

川村清志（国立歴史民俗博物館・ユニット代表）

「地域文化における創発とは何か—フィールドサイエンスの再統合が目指すもの」

高科真紀（人間文化研究機構人間文化研究創発センター・国立歴史民俗博物館）

「写真がつなぐ地域の記憶：戦後沖縄写真アーカイブズの公開と活用に向けて」

○ 国立民族学博物館

日高真吾（国立民族学博物館・ユニット代表）

「『地域文化の効果的な活用モデルの構築』ユニットの概要について」

山本恭正（総合研究大学院大学）

「世界遺産地域のなかの地域文化：三重県御浜町における「裏の屋敷」と民俗資料を事例として」

◇ 総合討論 コーディネーター 栗本英世（人間文化研究機構）

司会 天野真志（国立歴史民俗博物館）

◇ 総合司会 橋本沙知（国立民族学博物館）

横断的・融合的 地域文化研究の領域展開 —新たな社会の創発を目指して—

現代の地域社会の多くは、多発する災害や共同体内外の変貌により、危機的な状況にあります。既存の伝統文化を継承しつつも、新たな担い手とそこで更新される文化を通じた社会の創発が必要とされています。人間文化研究機構の広領域連携型基幹研究プロジェクトでは、地域の知恵や歴史が凝縮された伝統文化を取り入れ、持続可能で多様性にみちた社会のあり方を、保存科学、文化人類学、民俗学、歴史学、アーカイブズ学、生態学、言語学等の横断的な領域から検証し、社会／文化の創発に積極的に参与することを目指します。

国立民族学博物館ユニット「地域文化の効果的な活用モデルの構築」

地域文化の継承モデルとして、地域文化の再発見・保存・活用の活動をスパイラル的に連続させていくことで、豊かな社会の構築が図れることを提唱しつつ、この継承モデルをいかに市民に認知してもらうかを課題としていく。そこで、本研究では、地域文化をテーマとした国内外の地域博物館の活動を丹念に調査し、効果的な地域文化の活用モデルの構築を図ることとする。

国立歴史民俗博物館ユニット「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」

多様な研究分野の協働による調査研究と地域文化の共創のフレームを構築することを目的としている。横断型研究による新たな研究領域の構築と既存の各ディシプリンへフィードバックしうる具体的で実践的な提言を行う。地域社会の文化資源の創発に向けた協働での調査・研究・発信のフレーム形成を図るために対象地域との協働での調査研究／文化継承のモデル形成研究分野の融合と更新に加えて、学問以外との実践的モデルの構築を目指す。

国立国語研究所ユニット「地域における市民科学文化の再発見と現在」

地域文化に関する学際的研究の展開を軸に言語地図の作成など方言研究も含む市民による研究活動＝市民科学文化に光を当てる。市民科学は、学術コミュニティとしての学界と一般社会の架け橋であるとともに、アカデミックには実現できない継続的かつ長期的観察・観測、特定の目的・目標に集中することのない広い対象設定により、活動と実績が学術世界から注目されることが少なくない。学術への貢献や長期的継続・実践を有する市民科学の歴史と今を検証し、それを基盤とした地域文化の継承と創発の実現を目指す。

国文学研究資料館ユニット「人口減少地域におけるアーカイブズと歴史文化の再構築」

災害を取り巻くアーカイブズ（公文書や古文書など）について、過去を分析し、現在の課題に実践的に取り組み、地域持続・地域貢献の可能性を提起する。地域住民・自治体・地域の文化施設との研究グループとの連携の中で新たな歴史文化の構築を目指す。具体的には福島県の原子力災害被災地域をはじめとした人口減少地域における歴史文化の構築、担い手の創出、持続的な文化の継承を検討する。

総合地球環境学研究所ユニット「自然の恵みを活かし災いを避ける地域文化研究」

これまで多様な自然環境・歴史・文化をふまえ、災害にレジリエントな地域社会のあり方を検討し、研究成果を発信してきた。一方で、自然の恵みを活かし災いを避ける地域文化は日本全国で衰退しつつあり、次世代への継承に課題が残っている。そこで本研究では、自然の恵みと災いに関する地域文化の継承と地域での活用を、日本国内地域において実践する。

日時：2023年3月16日（木）10時～17時

場所：フクラシア八重洲

東京都中央区八重洲2丁目4-1

定員 100名（事前申込み制、参加費無料）

オンライン配信 定員 200名（事前申込み制、参加費無料）

申し込み方法：<https://forms.gle/Uiu8Q3ffweNg4xy8>

上記URL ないしは右QRコードへアクセスいただき、
必要事項をご記入のうえ、お申し込みください

お問合せ先：rekibun@rekihaku.ac.jp



主催：国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館

